



犬・猫・馬の
アレルギー特異的 IgE 検査

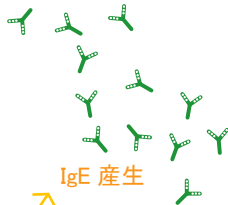
SPOT
Test

世界約 60 か国以上で検査実施

スペクトラムラボジャパン株式会社



アレルギーについて



②アレルギー反応とは

環境中には、様々な物質が存在します。

その中の、通常は害のない物質が**アレルゲン**となり、過剰な免疫反応を引き起こすことで、痒みや炎症を誘発します。

②アレルゲンとは

花粉・カビ・ダニ・昆虫・食べ物など、さまざまな物質がアレルゲンとなります。

アレルギーを調べる検査

血液検査：SPOT TESTのように、血液中の**IgE**を測定します。

SPOT TESTは、IgEを測定することで
どんなアレルゲンに強く反応しているか
を検査しています。

アレルギー発症と治療のメカニズム



アレルギーとなり得るもの

花粉

季節毎に発生するアレルギーです。
対策：シャンプーやブラッシングで
こまめに花粉を落とします。
空気清浄機が効果的です。



カビ

どこにでもあるアレルギーです。
対策：温度・湿度に注意し、湿度は
40～60%以下に保ちましょう。
空気清浄機が効果的です。



イエダニ

ハウスダストマイトとなります。
対策：湿度を低くし、ダニの繁殖能力
を下げます。
ホコリの量を減らしましょう。
ダニの死骸もアレルギーとなるため
殺虫剤などを使用した後も、掃除を行ってください。
(掃除機の使い方に注意)



フード

肉や植物などもアレルギーとなります。
アレルギーを含む可能性のある食物の
摂取および接触を避けましょう。
しかし現時点では、食物アレルギーを
確定診断できる検査は存在しません。
検査結果は、あくまでもフードを選ぶための参考としてください。



アレルギー症状がある動物と無症状の動物を比較した場合、検出されたIgEの数や量と症状に相関性が認められない事もあります。SPOT TESTは「今その動物の体がどのようなものを異物と認識しIgEを産生しているのかを検査し、それに対処する事」を目的としています。

また、アレルギーの発症にはアレルギーの他に環境因子なども大きく関係していて、何が引き金になっているかなど未だその正確なメカニズムは解明されておりません。総合的に対処していく事が大切になりますので、必ず獣医師の判断を仰いでください。

1997年WHO(世界保健機関)において減感作療法は「アレルギーの自然治癒を促す唯一の治療法」であり「新たなアレルギーの発症を予防する予防的治療法」と位置づけられています。

一度に92種類すべての
アレルゲンについて結果を表示

食物

牛肉
兔肉
鶏肉
豚肉
鹿肉
卵
ミルク
大豆
コーン
小麦
羊肉
米
七面鳥
穀草
オートミール
大麦
ジャガイモ
ビール酵母
アヒル/カモ
トマトのしぼりかす
ニンジン
マグロ
玄米
カツオ
ニシン
サケ
ナマズ
シシャモ
エンドウマメ
コンブ
カボチャ
トピカルフルーツミックス

室内/上皮/昆虫

ハウスダスト/ダニ	
犬	猫毛
猫	犬毛
羽毛混合	
マウス上皮	
馬上皮	
羊上皮	
貯蔵ダニ	
ゴキブリ	
蚊	
ハエ	
ノミ	
ブドウ球菌	
マラセチア	

草

ギョウギシバ
ライムギ
ハルガヤ
オオアワガエリ
セイバンモロコシ
カモガヤ
アシ
イチゴツナギ
クサヨシ
シラゲガヤ
コヌカグサ

雑草

ブタクサ
セージ(ヨモギ)
ヘラオオバコ
アキノキリンソウ
アザミ
アカザ
ギンギシ
ニワトコ
シロザ

樹木

ビャクシン
ニホンスギ
オリーブ
ブナ
セイヨウトネリコ
ハンノキ
シラカバ
ヤナギ
ニホンマツ
ヒノキ
ネズミモチ
オーク
クワ
セイヨウカジカエデ

真菌/カビ

サッカロミセス
カーブラリア
オーレオバシディウム
フザリウム
エピコッカム
アスペルギルス
アルタナリア
ドレクスレラ
クラドスポリウム
ペニシリウム
ムーコル
ステムフィリウム
カンジダ・アルビカンス